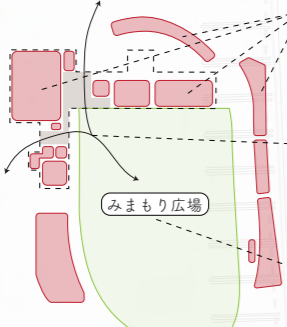




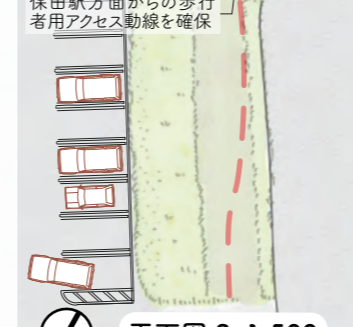
利用方法
鋸南町の人・モノ・コトをつなぐ—開かれた交流の場「みまもり広場」

■敷地を広く使った利用方法の提案

鋸南幼稚園を含め、敷地全体を使用した交流の場である「みまもり広場」を「わっか」で囲みます。新たな交流施設のあり方として、道の駅保田小にはない面的な交流を提案します。



- 散らばる「活動」
敷地全体に活動を点在させ、敷地を広く使い、偶発的な交流をつくりだします。
- 回遊性を高める土間
幼稚園の一部を「通り土間」とし、「わっか」と敷地全体の回遊性をつくりだします。
- 大きな広場
敷地の真ん中に面的な大きい広場をつくり、のびのびとした自由な活動・交流を促します。



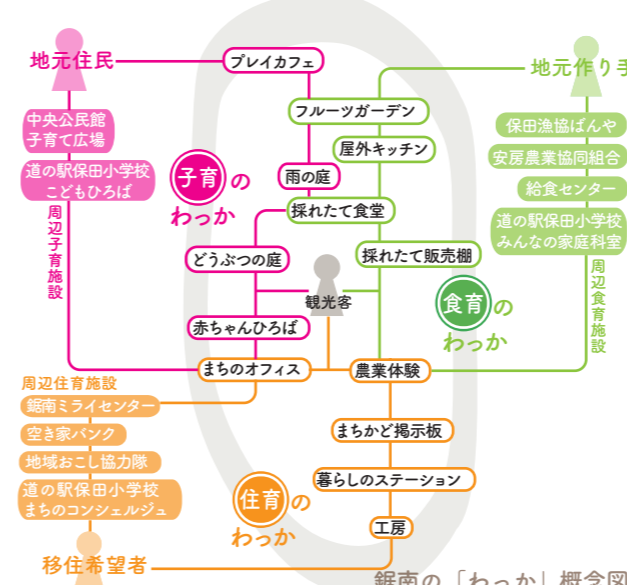
敷地ネットワーク
鋸南町のいまをつなぐ—活動ネットワークの拠点となる「わっか」(子育て・食・暮らし(職・移住))

■交流のネットワーク拠点となる「わっか」

鋸南町の周辺施設と連携し、「食育」「子育て」「住育」をみんなできつなぐ、鋸南の「わっか」をつくりだします。

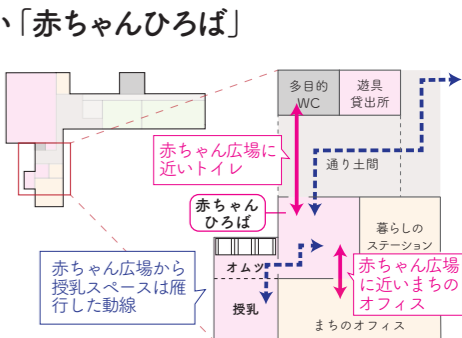
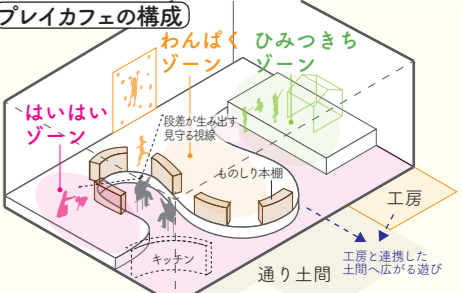
■多年代の子供とママパパの交流拠点となる「プレイカフェ」

体育館はプレイカフェとして幅広い年齢の子供たちが遊べるように計画し、子供の世代が異なる保護者同士の交流もできるようなります。室内に設けた段差と本棚が大人と子供の視線の関係を生まれます。工房と連携した遊びも魅力です。



■中からも外からも使いやすい「赤ちゃんひろば」

人通りの多い通り土間に面した配置の赤ちゃんひろばでは、訪れる赤ちゃんのママ同士の交流が生まれます。オムツ室や授乳室は動線を雁行させ人目を気にしないプライベート空間になります。まちのオフィスで働くママの子育てもしやすい計画です。



■食のサイクルが見える「採れたて食堂」

フルーツガーデンやみんなの菜園、裏の水田などから食材を収穫し、土間を使いながら「採れたて食堂」でそれらを調理して食べる過程を体験できます。



■モノや人の拠点となるバス待合

バスの待合所を敷地の広場まで引き込むことにより、鋸南の暮らしに関する情報共有や、バスで運んできた野菜の販売など人やモノの結節点となります。



■町民活動/移住支援を後押しする暮らしステーション

移住相談、町民活動拠点となる暮らしステーション/まちのオフィスを町民のための地域動線と外来者動線の交差位置に配置。町の活動を見える化します。

